



2017年度 東アジア交流研修報告書

子どもの育ちの自立支援

～退所者支援・自立を支える人～

2017年5月26日(金)～5月28日(日)

今回で8回目となる東アジア交流研修は、K-STARS 12名を日本にお迎えし、横浜で行われた。昨年度に引き続き、「子どもの育ちと自立支援」をテーマとし、両国からの子どもの自立に係る実践報告をもとに、それぞれの国における支援あり方や課題を共有し、意見交換を行いながら交流を深めた。

参加者

<NPO STARS>

太田 一平	高田 牧子
越川 和久	山口 由美
麻生 信也	山口 修平
砂山 真喜子	木山 美穂
曹 徳善	山本 良子
軀川 恒	安部 慎吾
春田 真樹	中澤 三和子
中道 亜紀子	

<K-STARS>

パクソンウク	チェウング
ジョンミンファ	キムソンファ
ジョンインチョル	ジョンジヒョン
シンウォンシク	イナムウ
キムヒョンジュ	ジョンヨンジュ
クァックドンス	シンウンチョル

<資生堂社会福祉事業財団>

大矢 和子	加藤 朗	辻 弘道
豊福 晶子	丁 泰熙	

東アジア 交流研修

<目的>

日韓両国の子ども家庭福祉関係者が、互いの子育て文化について知見を深め、両国の制度政策や実践事例などを学びあうとともに、継続的な活動への参加を通して、日韓両国の子ども家庭福祉における人材育成を図ることを目的とする。



施設見学 ①

○母子生活支援施設 白百合パークハイム

○乳児院白百合ベビーホーム

第1日目、横浜市にある母子生活支援施設白百合パークハイムと、乳児院白百合ベビーホームの見学を行った。同敷地内に母子生活支援施設と乳児院が配置されているといった特色や、婦人保護・支援に関する日韓の違い、また、韓国にはない乳児支援について見識を深めた。



日韓実践報告会・施設見学②

○子どもの虹情報研修センター

○児童心理治療施設 いずみ学園

第2日目は、子どもの虹情報研修センターを会場に日韓合同研修会を行った。はじめに、子どもの虹情報研修センター 研修部長の増沢 高先生に、センターの成り立ちや取り組んでいる活動、研修の仕組み等についてご教示頂いた。日本と同様、韓国でも子ども虐待が社会問題のひとつとなっているとのこと。センターの実践や研修内容について、韓国の参加者から質問が複数出され、活発な意見交換の時間となった。



昼食をはさみ、午後には隣接の児童心理治療施設を見学。

韓国には同じような機能をもつ児童福祉施設はなく、以前からその必要性を訴える声があったが、必要であれば柔軟に法制度も改正し、ダイナミックに新しいものを作り上げるのが韓国の強みのひとつであるとすれば、児童心理治療施設が生まれるのも遠い将来ではないのかもしれない。

実践報告会は、「自立支援」をテーマに韓国から2つ、日本から1つの報告を頂き、その後、グループに分かれてグループディスカッションを行った。

<実践報告>

- ①チェウング氏(児童養護施設 ドンボ園)
- ②シンウンチョル(児童養護施設 ボリス園)
- ③木山美穂(児童養護施設 至誠大地の家)



韓国からは、それぞれの施設の自立支援プログラムをもとにした支援の実際と課題について、日本からは東京都の自立支援強化事業の説明とコーディネーターとしての取り組みについて報告して頂いた。その後のグループディスカッションでは、「自立に必要な資源・ネットワーク」「自立を支える職員として」をテーマに意見交換を行った。

所感

子どもたちが自立をする時の状況や課題には両国間の違いも多々あるが、その差異を確認する作業自体が学びであったと感じた。私たちが訪韓した時と同様、韓国の参加者からすれば、日本の文化や価値観に触れながら施設見学をし、実務者同士忌憚なく意見を交わしあうその一つひとつが、研修の1コマであるのだと思う。8回を数えるこの研修であるが、ここ数回、両国の参加メンバーがある程度固定され、その分議論に深まりがでてきたが、一方でより多くの方たちにも参加してほしいとの思いもあり、研修のプログラムのあり方については今後も精査していきたいと思う。

(文責: 砂山)